

式辞

桜の花がほころび始めたこのよき日に、まずは保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。ご来賓の皆様、本日は誠にありがとうございます。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ただいま、卒業証書を授与しました。みんないい表情をしていました。一人一人が砧中学校での思い出と未来への希望を胸に、そして、お別れのさびしさも感じていますか。私は今、とってもさびしい気持ちでいっぱいです。私にとって皆さんは「日常」だったからです。

今から三年前、皆さんと私は一緒にこの砧中学校の一員になりました。それ以来、このメンバーで、砧中学校をつくってきました。今日このとき、皆さんと迎える三度目の春が来ています。春は繰り返し巡り来ますが、今年の春は格別です。三年間を共に過ごした大切な皆さんとお別れの春です。

皆さんが砧中学校に入学した令和五年の五月に、新型コロナウイルスが五類になり、少しずつ以前の学校生活が戻ってきました。河口湖移動教室は二つのグループに分かれて行われましたが、活動を制限することなく実施できた運動会や学芸発表会、校外学習、修学旅行

などの行事を、皆さんは心から楽しみ、いつも百点満点でした。生徒会活動や部活動にも責任をもって取り組んで、私が知る限り、世田谷区内で最もすばらしい学年に成長したと思います。昨日の最後の合唱練習で、自然に手をつなぎ、肩を抱き合って歌う姿に、皆さんの温かい友を想う心と絆を感じ、感動しました。

私は皆さんとの温かくて、礼儀正しいけれどフレンドリーな信頼関係が大好きでしたし、行事はもちろん、ホームページの写真を撮りに教室に行った時や校長室での面接の練習、道德の授業など、皆さんとの楽しい時間を共有できたこと、気持ちのこもったあいさつや笑顔で声をかけてくれたこと、ピースサイン、校庭から校長室に向かって手を振ってくれたことなど、最高にうれしかったです。

そして、ネクタイ・リボンの生徒投票や運動会の部活対抗リレー、スリランカの生徒たちとの交流など、生徒の意見で学校を改善していく皆さんの姿は、教職員や下級生にたいへんよい影響を残し、これからの砧中学校があるべきお手本になってくれました。あらためて校長として、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

皆さんが生きていく未来は、人工知能AIの発達やグローバル化がもっと進み、経済や職業が大きく変化する時代です。世界情勢や地球

環境の変化にも対応しながら、たくましく働き、生きていかねばなりません。新しいものや未知なるものを柔軟に受け止め、自分も相手も互いに納得できる考えや判断が求められます。マザー・テレサは「愛の反対は憎しみではなく無関心だ」と言いました。その時こそ、皆さんの最大の良さである「他の人に關心を持ち、ちがいを認め、リスpekトできる寛容さ、心の広さ」が必ず役に立ちます。正解がなく想定外のことがあふれるこれからの時代でも、やってみないとわからないのです。人生に無駄なことはありません。勇気を出して、あきらめずに、多様な人たちと協力しながら挑戦し続けてください。そして、春の花のような色とりどりのやさしい笑顔で、世界中の人たちを幸せにしてください。

結びに、卒業生の皆さん、皆さんの一度きりの人生のうちの貴重な三年間を、砧中学校で一緒に過ごしてくれてありがとうございます。私、皆さんと過ごした三年間を決して忘れません。明るい未来に向けて、皆さんの更なる成長と活躍を祈念し、式辞といたします。いつまでもお元気で。

令和八年三月十九日

砧の学び舎 世田谷区立砧中学校 校長 加藤敏久